

## 『花』演奏上のお願い

Tempo ゆったり。大河が流れる雄大さと、春の優美さを表現出来るテンポ。

イントネーションをクリアにする目的からも、5小節目、9小節目他の16分休符は正確に演奏する。

2番の歌い出し(25小節)の音量はp。深みのあるアルトの歌唱が求められる。

33小節からはf。明るく華やかなソプラノの声をホールに響かせたい。ヴィブラートの少ない透明で軽やかな歌唱が理想的。

51小節の“おぼろづき”の弱唱は、歌詞に歌われる情景の美しさに感動している様子を心に描きつつ演奏したい。

57小節からrit.があるので、指揮者を見る。  
各自で適当に遅くするようなことは絶対にしないように！

58小節2拍目のフェルマータの後はグレスをとらず、切れることなく59小節につなぐ。

周知の曲は、「自分が覚えている歌い方？」になりやすいので、楽譜に書かれている全ての情報(強弱、リズム、音程)を正確に演奏する。

個人の意識が1000人のアンサンブルを成功にも失敗にも導く事を知って欲しい。

人数が増えれば増える程、個人の演奏への責任は重くなる。

お客様への礼儀として、指揮者とコンタクトがとれるレベルまで可能な限り暗譜する。

## 『いとし子よ』演奏上のお願い

2小節目歌い出しの「いとし子よ」の「い」は音域が低いので、可能な限り丁寧に扱って欲しい。「い」が聞こえないと意味が変わってしまうので注意！

8分音符と16分音符が織りなす凝ったリズムにのせられたメッセージが、聴衆に伝わるかどうか？が、この作品を成功させる大きなポイントであることを知って欲しい。

複合拍子はテンポが遅れやすいので、指揮を見ながら自分も体に拍節感を持って歌う。

51小節から無伴奏は、「重み！」「重さ！」が言い切りの形に書かれていることに着目し、語尾が延びて休符が無くなるようなことにならないよう気をつける。基本的にインテンポで進むが、言い切った後の休符が持つ強い緊張感は大切にしたい。

「この両手の重み…」のリフレインは、毎回同じ！にならないように気を付けたい。

“いとし子”を初めて胸に抱き、その命の重さを実感して歌う11小節からのリフレイン、“戦火で血塗られた地には絶対に行かせまい！”という、母の強い願いが込められた30小節第1カッコ内からのリフレイン、“いとし子を守る為に平和な未来を築いて行こう！”という世界中の母親たちの誓いを込めた41小節からのリフレイン、さらにその誓いを、母の切なる祈りとして心を込める50小節からの無伴奏部分のリフレイン…。歌い手がしっかりとした意思を持って歌い分けたい。

歌詞を叫んだり、発語が重くなったりせず、美しい旋律にのせられた「平和の祈り」をしみじみと歌い上げよう。